



12月のほけんだより



平成 28 年 12 月
玉島保育園

冬になりました。子どもたちは寒さに負けず、元気いっぱい遊んでいます。保育園では先月RSウイルスが流行ってしまい、これからインフルエンザや嘔吐や下痢を伴う感染性胃腸炎も増えてくる時期です。子どもたちの体調の変化に注意していきたいと思えます。また、子どもたちにとってはクリスマスなどお楽しみがいっぱいの月ですが、ご家庭でも体調管理には十分気を配っていきましょう。

RSウイルス感染症

(原因)RSウイルスの感染によって起こる集団流行しやすい感染症。特に1歳未満の乳児がかかりやすく、気管支炎や肺炎を起こすことがあります。
(症状)鼻水やせきなどの症状が始まり、呼吸時にヒューヒュー、ゼーゼーといった音が出ます。重症化すると危険な状態になることもあります。



(注意するポイント)今のところRSウイルスに対する根本的な薬はありません。早めに受診し、こじらせないようにすることが第一です。

感染性胃腸炎

(原因)ウイルス性の感染によるもの。冬はノロウイルス、ロタウイルスが代表的です。主に経口、飛沫感染ですが、ノロウイルスの場合は、食品から感染することも。生後半年～2歳くらいの子が多くかかります。

(症状)激しい嘔吐の症状が突然現れ、下痢がそれに続き、発熱もあります。ロタウイルスに感染の場合は、便が白っぽくなることもあります。

(注意するポイント)激しい下痢が続くので、イオン飲料や湯冷ましなどで十分に水分補給をし、脱水症状にならないようにしましょう。症状は2～3日から1週間程度で治まります。

溶連菌感染症

(原因)A群溶血性連鎖球菌という細菌が原因となる病気の総称で飛沫で感染します。

(症状)高熱が出ることがあり、のどのはれ、おう吐、頭痛などの症状が現れます。首のリンパ節がはれたり、筋肉痛や中耳炎を起こすこともあり、その後全身に小さな発しんが出たり、舌に白いこけ状のものがつき、3日くらいすると赤くブツブツしてくるイチゴ舌や、逆に発しんや舌のブツブツが出ず、のどが痛いだけのときもあります。

(注意するポイント)抗生物質で治療します。症状が治まったからといって独断で薬をやめたりしないことです。



インフルエンザ

(原因)インフルエンザウイルス。

(症状)ごく短い潜伏期間のあとに、急な悪寒や発熱、全身のだるさ、筋肉痛があらわれます。熱は38～40℃で、3～7日間続きます。そのほか、腹痛や嘔吐、下痢などの症状が見られる場合もあります。発症後、数日してからセキや鼻水がひどくなり、気管支炎を起こす場合もあるので、注意しましょう。



(注意するポイント)発症後48時間以内に抗インフルエンザ薬を使用すると、発熱期間を平均1日短くすることができます。インフルエンザかどうかを判定するためには迅速検査がありますが、発熱後少なくとも半日程度たたないと正確な判定が出ないこともあります。発症した場合は、乳児幼児(園・所)は解熱後3日を経過するまでは登園・登所できません。

マイコプラズマ肺炎

(原因)マイコプラズマという病原性微生物です。

(症状)飛沫により感染し、2～3週間の潜伏期間を経て、頭痛や倦怠感、発熱などの全身症状があります。2週間たつと、セキが目立ちます。乾性のセキで、夜間に激しいセキが見られるなどの特徴があります。



(注意するポイント)夜間に激しいセキが出たり、屋間の生活に支障があるほどのセキが出たりする時は受診しましょう。

今月12月の保健予定

12月	7日(水)	0・1歳	身体計測
	8日(木)	2・3歳	身体計測
	9日(金)	4・5歳	身体計測